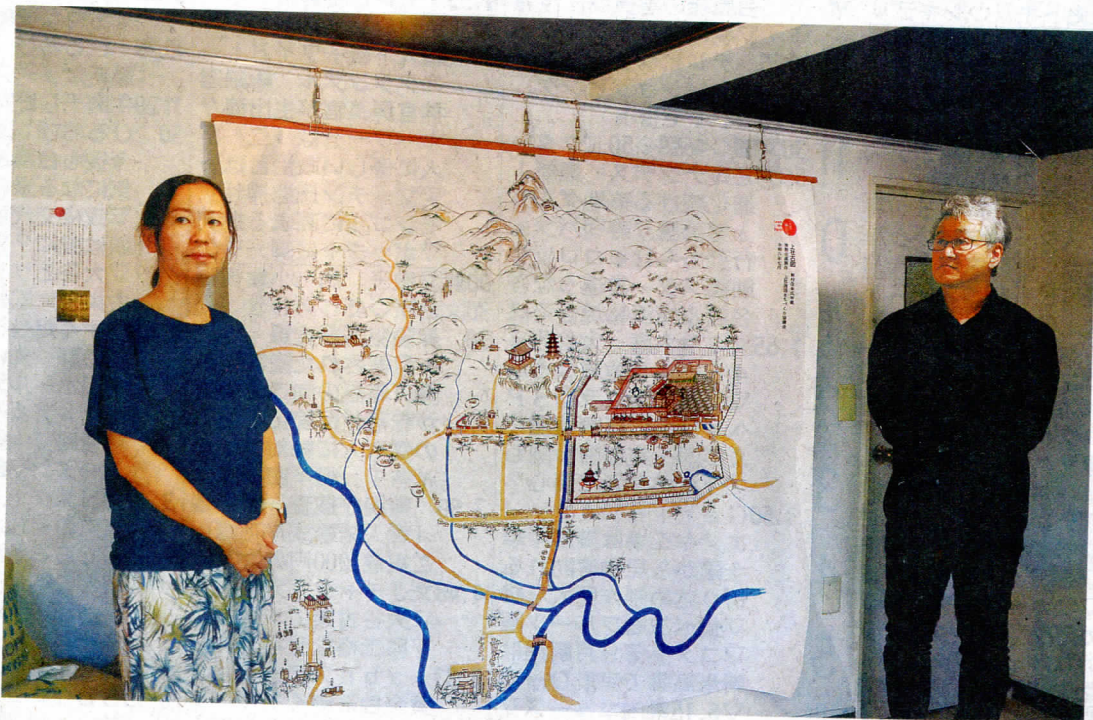


「上社古図」歴史語る写本

原本では読み取れない部分再現

「諏訪大社上社古図（市指定文化財）」の写本のレプリカが常設展示されている。上社古図は、上社の周辺を描いた古い絵図。写本では、著しく傷んでいる原本からは読み取れない部分が再現されている。（石角拓也）

昨年発見されたのは、新村さんの蔵のたんすで大切に保管されていた、上社とその周辺を描いた最古の絵図「諏訪大社上社古図」を模した「伝天正古図」権祝矢島家所蔵の写し。原本で



カフェ&ギャラリー「柏屋」に常設展示されている諏訪大社上社古図の写本のレプリカ

昨年発見、柏屋（諏訪）にレプリカ展示

展示されているレプリカは、同地区の住民を中心に構成する団体「上社周辺まちづくり協議会」（小島実会長）が「観光客や地域住民が見て、歴史の考察などを楽しんでもらおう」と制作した。サイズはほぼ原寸大の縦横約160センチで、劣化を考慮して撥水、防炎の素材を使用。小島会長が書いた解説文もある。

御神体の守屋山をはじめとする山々、上社本宮や前宮、現在の富士見町にある御射山社などが記されている。上社古図の写本を描いたと思われる明治時代末期には、既になくなっていたと推測される建物「磯並社」なども表現。上社付近には、五層塔や普賢堂といった寺町も描かれ、神仏習合の暮らしもうかがえる。

小島会長は「なぜ当時にはないはずの建物が描かれているのかを考え、推測するなどして楽しんでもらえれば」。新村さんは「神宮寺の歴史を区民らに身近に感じてもらう、後世につないでもらいたい」と話している。

営業時間は午前10時～午後5時。撮影は可能で、その際はスタッフに一声掛けるよう呼び掛けている（二次使用、拡散、フラッシュは不可）。

展示に合わせてA3判の複製を50部限定で製作し、1枚2000円で販売している。